

2026年6月11日

『みんなのスポーツ』6月号(No.524)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の6月号は「**スポーツと気候変動**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



(1) **げ・ん・き 活動日誌** 新任委員のみなさんから寄せられた、現場でのリアルな疑問や不安の数々。長寿連載の「げ・ん・き 活動日誌」の過去の記事から、先輩たちの体験談や名言をピックアップして「アンサー」として再構成。面白い企画である、書かれているように明日からの活動がもっと楽しみ。新人ならずとも大いに参考になる、ちょっと読んだだけでも自分のところでも使えると感じるところが数点ありました。

(2) その課題、どうすれば解決できますか？

昨年度の全国スポーツリーダー養成講座に受講のグループ討議や演習の中から、深堀された「現場のリアル」と「解決への突破口」を4ページにわたって記載され、悩みの先に、必ずヒントがある。例えば、現場から生まれた「現状打破」への視点では、3つ書かれている。「組織の壁を超える」：スポーツ推進委員だけで完結せず、他の団体や教育機関と研修を行うなど、**学区の垣根を越えた仲間づくりから始める。全く同感**、他の団体も同じような悩みを抱えており共感しました。

「巻き込む」ための調整術：四日市市の事例から、自分たちで要綱を作り、学校や保育園、社会福祉協議会へ出向いて、「こんなスポーツを授業や行事に取り入れませんか」と働きかけている。同じようなことを取り組んでいると感じました。

(3) **キャリア処方箋；アドバイスが主体性を奪う？** 「問い」で行動を促す伴走型支援 「相手のことを思ってアドバイスをしたのに反発をされた」こんな体験をした方もあると思います。相手の方が、自分の能力や自由を否定されたが無意識思ってしまうことがあります。一般的な教えは逆効果になることが少なくありません。受け取る側に「心の準備」ができていなければ、助言は押しつけになってしまいます。

つい口に出るのが、「なぜできないのですか？」という問いは、相手を追い詰め、言い訳を相手が探すということにつながります。「〇〇の部分が壁になっていますか？」と状況を整理して返してみてください。肯定的な要約への変換は相手を圧迫感から解放することになります。「**問い**」を「**要約**」**変換**という行動です。他にも、**意図の承認**や「待つ」という支援(沈黙の許容)。

熱中症対策もよい内容が書かれており、別にまとめてみたいと考えております。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて(行動)みませんか？

*本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど思います。ここへきて大きく変わってきていると感じます。紹介されていることがそのまま使える、本当に読みやすい、わかりやすい事例が多い。

活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上